

奥洞名平練糸毛

下

真珠

13
1164
57



1164
57

奥羽 道中 膝栗毛 初編 卷之下

十返舎 一九 著



猪弥次平兵衛はる道する鼻毛の延高筑羅屋の
二人を引出し一覽せむやとその日の混雑
高主もどくのうりまうあひおとぐく坊届を
寺へ預けし存多八をぐぬいと遊んと法外
弥次平がのころみ草加富の山本あて待合を

一と素くたしく手紙てがみをまわつてめてきく。俄いざに續つぎ
は發はくして立出たちだま川がわ千住せんじゆの譚たんをきく。かや小塚こづか
原はらの町まちをさむらとくく延のびき

市いちのころちうごつた跡あとの目野めのまで

あふ刀やいばの小塚こづか原はら町まち

跡あとは平ひら無む糸いともとくあへび

観音くわんおんのふじゆ高たかとしてさむらやよ

こんらまのあるくらめめらあ

鏡かがみ環わん坊ぼう糸いとも一いち首くぶううみううとて

飯いひ盛もりのきやくづうても居ゐ居ゐを

きゑもバ障しょう義ぎをさむらめのはし

かくらち真まトトらひ行ゆふ。社しゃをく大おほ橋はしといふ

この水源みづのゑハ換かひ父ちち郡ぐん大おほ滝たきよりいせ谷や々々諸しよ多た橋はし

今いまは榛しん澤ざい男おとこ名な者ものあ郡ぐんの間まを流ながれ来きて西にしハ横よこ見み

東ひがしハ足あし立た郡ぐんの地ち方かたをつらいて来きハ名な又またおし隅すみ田で

川がわちり

千住宿をとおれ新宿といふ所よきところ
 宿の北の入口西側は茶釜茶屋といふあり跡は
 兵衛茶屋の角よりまうて例の生駒知又へ
 先生との茶罐の茶屋もいふいふでござい
 へ何いひめいおといふを茶釜茶屋と
 茶釜あめのり茶釜茶屋サ先生ハ故車東歴を
 あらねへううそとてうらんもいひあさるが論より
 證據ハアレ見あせへこの状仁の頭顱が茶釜の中よ

下二

茶釜あめのり茶釜茶屋サ先生ハ故車東歴を
 あらねへううそとてうらんもいひあさるが論より
 證據ハアレ見あせへこの状仁の頭顱が茶釜の中よ
 茶釜あめのり茶釜茶屋サ先生ハ故車東歴を
 あらねへううそとてうらんもいひあさるが論より
 證據ハアレ見あせへこの状仁の頭顱が茶釜の中よ

小塚原町との所をどや飯盛
 多し荒川み大橋あり千住
 大橋といふ橋戸町戸ノ夏ノ義多
 河原町掃部宿あり毎朝
 青物市立并み鯉鱈問屋
 多き中ハ松のうらまは榎屋と
 しが名物あり卿の
 雀焼甘露煮ありとよ
 あり・寺社牛頭天丁
 飛鳥権現・熊野権現
 山王権現・稻荷・氷川八幡等あり



一九狂四

下田



酒

とや飯盛

とや飯盛

これひん

え

え

え

一返舎

十九

いふあり。六月村より大寺土用坊より寺あり。いふあり
ら〜花名もあはる延言とらうあり。

大宅まばらぐれ〜ちも大天寺

土用坊よりあるありやあて

いふあり〜知らしめて。そまよう所の家村より

強兵衛ハ龜屋とらへる茶屋よむびさ〜あて 強兵衛モシ

先生この店より一盞氣まつけて行くやせう。葛角

酒のまらてもあはるとまら〜行く。モウ酒を飲ん

著のありやせん〜へッやあてが。どんごれはうら〜まか

あは 強兵衛 ナニニ合や三合の酒は酔してはあまののう。まに

酒肴の道中いこつをいサ 先生のお宅で山の宿の桐屋

の酒と呑やうある人出来強く〜へそん〜さづ。船所

まの店いんぐの泉川名い酒のう。まの壺が安くて外目が志

こも。あはともうとも言分あ〜ぶら 強兵衛 八江戸

でもあは酒めつ〜や呑強へう〜道中ハ使方が

強く〜あは〜あて。先生も中らう〜やせうト。あつと

まひり

保木間の西の田中

荒痛の生る池あり

水神が池といふ昔

大なる池ありしが今ハ

漸狹して六七間あり

十葉殿三拾貫文伊

真村拾五貫文保木

同村といふことを

その頃この辺八千葉の

領分と思ひける千葉ハ

武及亦塚は樹馬

イナイちよもびろとおおれ之中もたき事ハハク
お客さるぬらやお煙草金魚あげのヨハハク
か中たむとわんきもちまきこふ孫はひ 汝先生まれ
ほさるあそあらしくねあくまこ
お始あけへ延まへららさうお前をどあま
ろ孫ハナツトそのもろ赤あふトのんせハナ
ひこらるもちごと亦あささえも面倒
つし重やせうト せんまよまらちの延言ハヤシバ
見あさる。あいおころうが通りめさる

河がエ... 多の女ちよも。ヤレたら表を通つこも

イトシカ... ちよも通るも。後へあう延まへそのせ

アト... 強腹でト。酒でも

アト... ちよも通るも。後へあう延まへそのせ

アト... ちよも通るも。後へあう延まへそのせ

アノ男の仕うちがなまよ入給へうういあをつけのど。
大平樂ぢやア後へが箱根八雲八真明友達騒音の
間くらお富士さぬアおがまをて神田の八丁堀頼智面
屋跡江平兵衛さんといに己がこころ。みくらでも後へア
く一盃呑まわさく。是ううが酒で。ナゲ二杯やまか
ハ風前の塵がア先生おあうまひ中々おせいもハカク
お運さぬわづれ分お出あさまこい。さういふう先刻
はさへ志さくくやうま。した
あつて
おのてへかたかたこころいふいふは二杯

もこらわつら給は
かういふやう
モウ一酒ハ中あごく一給めううまう通へ。ソレ
えぢきうつ
お定約まらんあせへい。ハハレ一られいあごく
さうまは給は
大分先へいりてままるまアがうらう
いさくしめい合へ。ナイおせ給さぬい。ハハレい
おまはせお忘物あひうす。おゆりあされ入つあま
おまはアられ噂ごうゆい。まあか。こころ
かきくさ出けらよ。目もなや。酒山よううが。十日の



繪馬をまきかけぬ

くうじうの吉野の

御膳

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

奇花ねんじ

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

あつたて

鳴根村の安徳寺へ
 往還より西三丁なる
 あり日蓮宗を
 寺領三十石あり
 保本間村に榎一本
 道の傍に増をくわあり
 里俗首鑑り榎といふ
 近た頂八白山権現小
 祠より榎死をのり
 本榎の痛の願を
 かきかへしありとて



一九狂画

さも秘へ。そも六奇く妙くといふのがあやめ 活入 十
く 六 へ ま ぐ く 遠くさんあも た かん あ せん く があるうら
只ハ出来秘へ。ナント う 駕籠 ち 賃 ん を ま 拂 ら せ ら れる ま ぎ あ あり
る ま ぐ う 一 ま ぐ う ま う 那 あ 奴 ら 等 か 二 か 人 ら を い じ の 可 ん 拜 て せ や せ
中 は 活 け へ 又 みる つ け る う い ぐ 一 駕 り 賃 賃 義 知。ソレ 武
百 匹 ハ 不 定 ぐ ま ぐ ま ぐ い。 ち ぐ く レ ト う け ら せ る ま ぎ あ あり
時 又 その 之 史 ハ 外 で も 秘 入 先 か う ぐ。 お ま ぎ ち で ま ぎ あ あり
られ と 惟 子 を 持 て く ま て く ま あ ら ら。 け 衣 を ひ つ く

うけて例の三角色で、ト サ ド ワ の幽霊 ハ ど く 二 個 か
ぐ 憶 病 ぐ う 目 を お ま ぐ 必 定 ぐ。 その 凶 よ ま あ ど 七
強 者 均 を ま た あ け る ハ ナ ト よ ら ら ら 一 ら や ア
妙 く ま ぐ う ま ぐ の ま ぐ。 保 良 花 と く て 經 帷 子
ま あ つ て ま ぐ ハ 何 サ は 色 ア 色 く 味 ぐ あ あ い
ぐ ま の 羞 當 て 幽 霊 の 仕 度 ハ 肝 心 ぐ ハ ホ シ ま ぐ
ぐ ハ そ ん あ ら は 活 入 さん お 前 先 生 の 祈 へ い ら て。
今 活 入 ら ら 活 御 が ま ぐ ま ぐ ま ぐ ま ぐ 八 が 寺 で ま ぐ

その時、^{そのとき}ハコウもあせう。マビの出ほど首筋もころぞり。

マク藩も味方らうりや。マビとマビハ恨めやのう先生筑

羅房も延江舟も。供、^{とも}黄泉へはまゆらん。アラ恨め

のうト、^{それ、}縁はらうりや。マビとマビハ恨めやのう先生筑

マビとマビハ恨めやのう先生筑。マビとマビハ恨めやのう先生筑

マビとマビハ恨めやのう先生筑。マビとマビハ恨めやのう先生筑

マビとマビハ恨めやのう先生筑。マビとマビハ恨めやのう先生筑

マビとマビハ恨めやのう先生筑。マビとマビハ恨めやのう先生筑

まろ移へ。わつと幽霊らうりや。マビとマビハ恨めやのう先生筑

マビとマビハ恨めやのう先生筑。マビとマビハ恨めやのう先生筑

マビとマビハ恨めやのう先生筑。マビとマビハ恨めやのう先生筑

マビとマビハ恨めやのう先生筑。マビとマビハ恨めやのう先生筑

マビとマビハ恨めやのう先生筑。マビとマビハ恨めやのう先生筑

マビとマビハ恨めやのう先生筑。マビとマビハ恨めやのう先生筑

マビとマビハ恨めやのう先生筑。マビとマビハ恨めやのう先生筑

マビとマビハ恨めやのう先生筑。マビとマビハ恨めやのう先生筑

その時、^{そのとき}ハコウもあせう。マビの出ほど首筋もころぞり。

マク藩も味方らうりや。マビとマビハ恨めやのう先生筑

羅房も延江舟も。供、^{とも}黄泉へはまゆらん。アラ恨め

のうト、^{それ、}縁はらうりや。マビとマビハ恨めやのう先生筑

マビとマビハ恨めやのう先生筑。マビとマビハ恨めやのう先生筑

マビとマビハ恨めやのう先生筑。マビとマビハ恨めやのう先生筑

マビとマビハ恨めやのう先生筑。マビとマビハ恨めやのう先生筑

マビとマビハ恨めやのう先生筑。マビとマビハ恨めやのう先生筑

まろ移へ。わつと幽霊らうりや。マビとマビハ恨めやのう先生筑

マビとマビハ恨めやのう先生筑。マビとマビハ恨めやのう先生筑

マビとマビハ恨めやのう先生筑。マビとマビハ恨めやのう先生筑

マビとマビハ恨めやのう先生筑。マビとマビハ恨めやのう先生筑

マビとマビハ恨めやのう先生筑。マビとマビハ恨めやのう先生筑

マビとマビハ恨めやのう先生筑。マビとマビハ恨めやのう先生筑

マビとマビハ恨めやのう先生筑。マビとマビハ恨めやのう先生筑

マビとマビハ恨めやのう先生筑。マビとマビハ恨めやのう先生筑

りんあれちまへんをのらげ、亮ニツちりるがあらうこ人
 をうの魂潤させへ工治文のうこそめされを徳福のかけ
 であくとも妙らびせりてくせんせんとくちと結く事にて
 せり事よ。あつても信こそ後いざんあひあひ氣味い
 く 後ハナゲとやんせりて。チヨウのめいし。ま
 せられらう。モウくこのる福もぢやアいも後へく
 へへ。痛くどうもこの分ぢやア淋され後へ生
 の鼻もこの通うよ。後へぢやア腹がの後へうぬどう

ちるうんろト ちるあがをいひてちるう房。後へ しまアく 鉄
 多ハお色があやまるうく不簡まるがう。道中へと
 早く噴喉がうまのくハせくきんぐらうんちるへ
 何れ友達同士でせりるのう。ヒもするあつては 効
 へめされてしまませ 延ま。けいのやうなる鼻のこ
 ちるのあ。ちるのう。首くろんぶらこれとあらう
 効めあやう
 あなめでんかけせくづれぞ鼻柱

十返舎一九戯作

雨廼屋隣春狂画

奥羽道中膝栗毛二編三編 共六冊 近刻 同作同画

弘化五年戊申春正月新刻發市

本所相生町二丁目

江戸書林

紙屋利助

浅草福井町二丁目

山崎清七

